



旌表 (せいひょう) とは、善行をほめて、世に広く示すことです。優秀な学校に贈られる名誉ある旗で、1914 (大正3) 年に当時の福岡県知事から受領しました。100年以上経った今でも、柳河小学校の校長室に現存しています。

詳しくは、「創立150周年記念誌」や「思い出の写真展」のページをご覧ください。



# 柳河小学校校歌



本校の校歌は、昭和11年7月、柳川市出身の北原白秋先生より贈られました。柳川市内では、本校とともに、矢留小学校、城内小学校が北原白秋先生より創っていただいた校歌を現在まで大切に歌っています。

なお、一番の歌詞にある「祇園」は、今も本校の校門の前にあります。

柳河小学校 校歌

作詞 北原 白秋  
作曲 幾尾 純

一 水の街 柳河 輝くは 祇園守  
    曇雲と映る この産土 愛せよ  
    ここに生まれ 我等承けたり  
柳河 柳河 柳河小学校

二 香りあり この水 高く持て 郷の矜  
    柳風にそよぐ この学び舎 集へよ  
    朝にかよひ 我等どよみぬ  
柳河 柳河 柳河小学校

三 望めいざわが友 あさみどり 空のかぎり  
    仰げ常に稚き かの月と日 朗らよ  
    ここに学び 我等育たむ  
柳河 柳河 柳河小学校

※ 白秋先生直筆の原文表記です

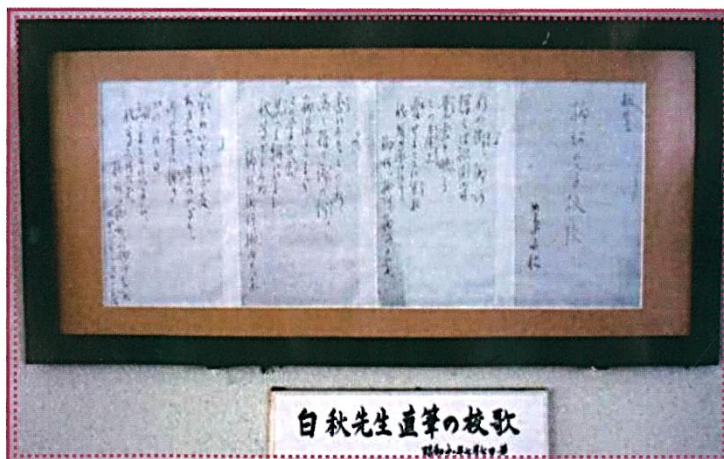


我が柳川が生んだ詩聖 北原 白秋先生は、1885年（明治18年）柳川市沖端で酒造家の長男として誕生しました。中学伝習館の頃より文学を志し、伝習館を中退の後、東京の早稲田大学英文科予科に入学しました。その後、詩集『邪宗門』『思ひ出』『桐の花』など多くの詩集を世に送り出しました。童謡『ゆりかごのうた』『砂山』『からたちの花』『この道』『待ちぼうけ』『雨ふり』など今日まで歌い継がれる数々の名作を生み、野口雨情、西条八十らと共に日本の童謡の黄金時代を築きました。昭和11年制定の本校校歌は、白秋先生の作詞によるものであり、作曲は、白秋先生と同じく伝習館で学んだ幾尾純先生によるものです。



いくお じゅん  
幾尾 純  
(1884-1941)

- ・ 明治43年東京音楽学校（現在の東京芸術大学）声楽部卒業後は、奈良女子高等師範学校助教授、東京音楽学校教授として、日本の音楽教育理論の体系化と指導実践化に尽力しました。
- ・ 白秋先生、幾尾 純氏、中島政治氏（柳河小第11代校長）は 中学伝習館の同期生です。



白秋先生直筆の校歌

【柳河小学校・北校舎玄関に掲示】

※創立150周年記念誌より引用



# なかよし子ども像・学校目標の石碑



1987(昭和62)年10月24日に開かれた創立115周年記念式典年・祝賀会を記念して、「なかよし子ども像」と「自主」「友愛」「努力」が刻まれた石碑が作られました。



なかよし子ども像落成式の様子





# 大くすのき・子ども作成のさげもん



樹齢330年を超える大くすのきが、いつも子どもたちを見守っています。



4年生が総合的な学習の時間で地域の方々に教えていただきながら作った「さげもん」が、玄関を華やかにしてくれています。

